

品種	作付面積	単収	地域の単収との差 (地域の平均単収)
北陸193号	6.0ha	680kg/10a	192kg/10a (488kg/10a)*

\* 作柄調整後の地域の平均単収

### 【経営概況】

- 家族経営 (本人、繁忙期：息子)
- 近隣15戸の乾燥・調製作業及び約35haのドローン防除を受託

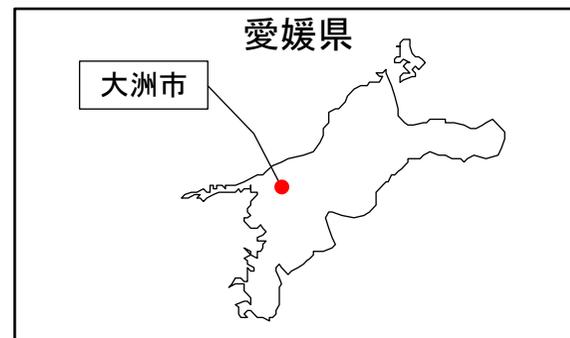
### 【作付品目】

- 主食用米 3.7ha  
(コシヒカリ、あきたこまち、ヒノヒカリ)
- 飼料用米 6.0ha



### 【取組のきっかけ】

- J A 愛媛たいきからの勧めがあり、平成元年産から「モミロマン」により飼料用米の取組を開始。令和2年産からは、より多収に期待ができる「北陸193号」に品種を変更。



### 【取組概要】

- 種子は自家採取種子を使用するとともに、50株/坪の疎植とすることで苗箱数を16枚/10a程度に抑えてコスト低減を図っている。
- 田植時に「化成肥料14-14-14」(60kg/10a)を田植同時側条施肥するほか、8月に穂肥として化成肥料(40kg/10a)をドローン(自己所有)散布し省力化を図っている。
- 病害虫防除は、育苗箱施用のほか、出穂前に「ブラシバリダフロアブル液剤」(0.8L/10a)をドローン散布。
- 雑草防除は、代かき時に「デルカット乳剤」(500ml/10a)、田植え時に「ラオウ1キロ粒剤」(1kg/10a)を同時施用、中干し後には「バサグラン粒剤」(3kg/10a)又は「クリンチャーバスEW」(800ml/10a)をドローン散布し省力化を図っている。
- 乾燥・調製は、自らの所有施設で行っており、刈取りを遅らせ立毛乾燥することによりコスト低減を図っている。
- 多収品種はコンバインに高負荷がかかるため、令和元年から収量センサー付コンバインを導入し、刈取速度、刈り高さを調整し過負荷を防止。またドローン、田植機等をK S A S (クボタ経営支援システム)と連動させ栽培管理に活用。
- J A 愛媛たいき主催の飼料用米研究会に参画し生産技術の向上を図る等、J Aと連携して実需者ニーズに対応できるよう努めている。